まちなかの居心地の良さを測る指標（案）・概要

令和２年３月30日

国土交通省　都市局　まちづくり推進課

目次

国土交通省

１．まちなかの居心地の良さを測る指標（案）作成の背景・目的

２．検討体制・指標の構成

３．指標の使用方法

４．改善状況のフォローアップ

1. まちなかの居心地の良さを測る指標（案）作成の背景・目的

国土交通省

（1）背景

- 令和元年６月26日、「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」の提言として、『「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生』が取りまとめられました。

- この提言を踏まえ、国土交通省では、「まちなかウォーカブル推進プログラム（令和2年度予算決定時点版）」として、関連する令和２年度予算や税制改正、検討会・懇談会、作成予定の事例集・ガイドラインをとりまとめており、この中で、まちなかの歩きやすさ等を客観的に評価する指標を作成することとしています。

（2）目的

- これを受け、国土交通省では、「私たちのまちは、どれくらい居心地が良く歩きたくなるまちなのか。」を測るため、主に地方公共団体にお使いいただくものとして、「まちなかの居心地の良さを測る指標（案）」（以下指標）を作成しました。

- 歩きながらまちなかの状況を簡易に現状把握し、居心地の良いまちなかの形成には何が必要なのかといった改善点を発掘するツールとしてご活用いただくことを目的としています。

（参考）
都市の多様性とイノベーション創出に関する懇談会提言：「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生（令和元年６月）

取組（10）ウォーカブル・シティの形成
②日本版ウォーカビリティ・インデックス（仮称）の開発
・国内外の先進事例・研究や民間商業施設の立地戦略等を参考に、まちなかのアイレベル・グランドレベルにおける歩きやすさ、滞在しやすさなどを測る客観的指標：日本版ウォーカビリティ・インデックス（仮称）の開発に着手すべき。

2. 検討体制・指標の構成

国土交通省

（１）検討体制

本指標は、まちなかで行われている人々の多様な行動やハード環境等の要素が「居心地の良さ」にどのように関係しているかを整理・分析するため、下記の有識者に助言をいただきながら、指標の構成や調査の中で重要視すべき視点に留意して作成しています。

島原万丈氏
LIFULL HOME'S 総研所長

ユーザー目線での住宅市場の調査研究と提言活動に従事。著書に『本当に住んで幸せな街全国「官能都市ランキング」』など。
「都市の多様性とイノベーション創出に関する懇談会」ゲスト委員の一人。

小﨑美希氏
お茶の水女子大学 助教

専門は、建築環境工学・環境心理・照明計画。観察調査などを通じ、定性的・定量的なストリートの快適性を評価する総合評価手法を開発。共著に、『ストリートデザイン・マネジメント: 公共空間を活用する制度・組織・プロセス』

（２）本指標の構成

「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成は、まちなかで多様な人材が集い、滞在し、交流することを目的としていることから、本指標では、まちなかの「居心地の良さ」を測る指標として滞在者をはじめとする人々の行動の多様性を把握することに重きを置いた構成としています。

本指標で把握する対象は、

- ・「ハード環境（歩道・施設帯や沿道建物・広場・公園）」
- ・「空間の快適性・魅力」
- ・「人々の行動の多様性」 ※本指標で最も重要視する項目

とし、まちなかの状況を総合的に把握する構成をとっています。

2. 検討体制・指標の構成

本指標は、『「ハード環境」を改善しながら、そこに滞在する人々の「空間の快適性・魅力」に対する感じ方を向上させ、その結果として「人々の行動が多様」なものになる。』という流れで、まちなかの状況を総合的に把握できる３つの視点で整理しています。

「まちなかの居心地の良さを測る指標（案）」

CS：Check Sheet

ハード環境

多様な人が集い・滞在し・交流するための空間が備わっているかを測るため、ハード整備状況等について、存在有無を確認する

（例：自由に座れるイスがあるか）

使用する確認シート
- CS1-A　歩道・施設帯確認シート
- CS1-B　沿道建物確認シート

空間の快適性・魅力

訪れた人が使いやすい空間と感じられるかを測るため、まちなかの快適性や魅力について、感情を確認する

（例：座れる場所がすぐ見つかるか）

使用する確認シート
- CS1-E　快適性確認シート
- CS1-F　総合評価シート

人々の行動の多様性

実際に多様な人々が集い・滞在し・交流しているかを測るため、まちなかの滞在者の量や行動の多様性について、存在有無を確認する

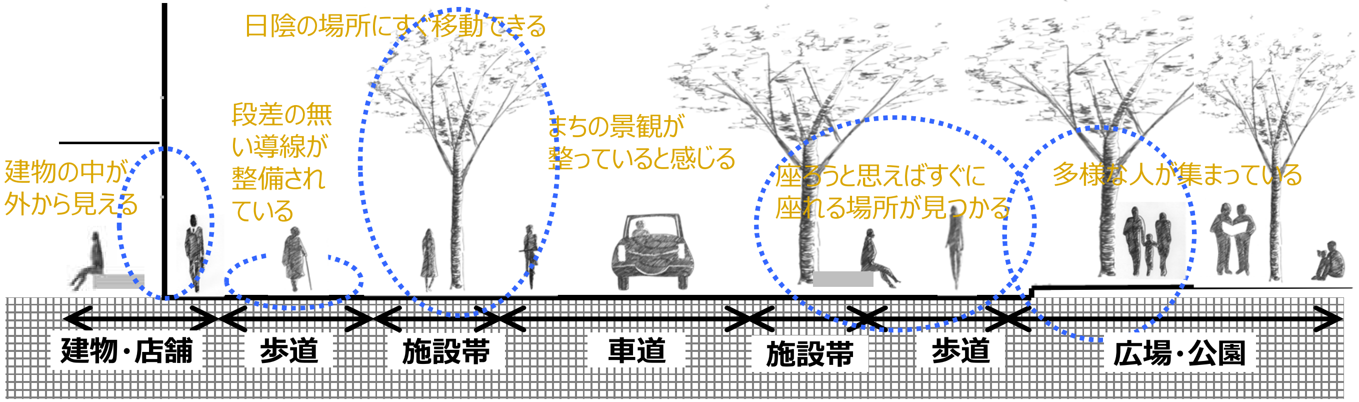
（例：座っている人がいるか）

使用する確認シート
- CS1-C　滞在者確認シート
- CS1-D　通行者確認シート
- CS1-X　多様性確認シート

（調査イメージ）

３つの視点でまちなかの状況を総合的に把握することで、「居心地の良さ」を向上させる上での課題発掘を現地で確認する。

多様な人が集まっている、まちなかの賑わいに貢献している建物が多い、家族と来て楽しく過ごせる



3. 指標の使用方法

国土交通省

（１）使用手順

まちなかの居心地の良さを測る対象（ストリートや広場）を設定し課題発掘を行うにあたり、本指標は以下の手順で使用します。（１回の現地調査は１時間程度を想定しています。）

※具体の調査方法や、調査の際の留意事項は別紙「調査要領」に掲載しています。

本指標の使用手順

STEP	手順	内容
STEP １．事前調査	まちなかのストリート・広場の選定（机上）	✓ 指標を活用するストリートを選定し、現場で確認しなくてもわかる項目（整備状況等）については事前に確認
STEP ２．現地調査	歩道・施設帯の確認	✓ 歩きながら歩道･施設帯に関する整備状況について確認（選択方式）
	沿道建物の確認	✓ 歩きながら沿道建物に関する状況について確認（カウント方式）
	人々の行動の確認	✓ 滞在者･通行者に関する状況を確認（カウント方式）※通行者は定点観測。
	快適性・魅力の確認	✓ 整備状況等から現場で感じられることを確認（選択方式）
STEP ３．課題の抽出	現地調査の結果を分析ツールに入力	✓ 分析ツール内（別紙Excelデータ）の記入項目欄に、調査した結果を入力
	出力結果を用いて検討・課題抽出	✓ 出力されるグラフ等を参考に自らのまちの現状を把握、課題を抽出

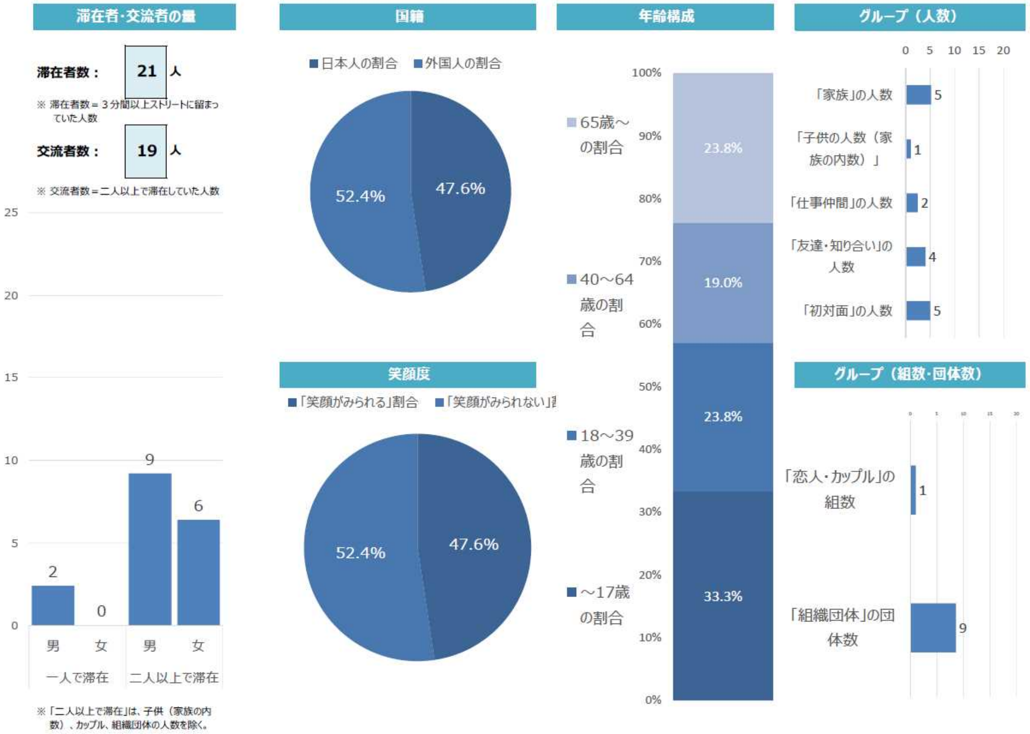
※課題を踏まえ「居心地が良く歩きたくなる」まちなか形成につながる各種の取組みを行う。

国土交通省

（２）分析ツールによる課題抽出

分析ツール（Excelデータ）に現地での調査結果を入力すると、「分析・検討用」と「概要報告用」の２種類で調査結果が出力されます。滞在者数をはじめとする人々の活動の多様性を向上させるための課題抽出に活用してください。

「分析・検討用」出力イメージ　※以下は、出力内容の一部



滞在者の行動の種類

No.	確認された行動
1	携帯電話・スマートフォンを見ている
2	電話している
3	建物や景色等を見ている
4	飲食をしている
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	（その他行動）

「概要報告用」出力イメージ

■ 基礎データ

自治体名： 東京都 A 区	人口：	270,000 人		
ストリート名： A ストリート	延長：	280 m	始点：35.606616, 139.668548 終点：35.607326, 139.670860	

調査日時： 2020年2月17日 月曜日 祝日 13時00分～14時00分
気温： （開始時） 13℃ ～ （終了時） 14℃
天候： （開始時） 晴れ ～ （終了時） 雨（雪）

■ 人々の活動量

通行者数： 50 人
※ 通行者数＝３分間で目の前を通過した人数

滞在者数： 7.5 人 / 100m
※ 滞在者数＝３分間以上ストリートに留まっていた人数

交流者数： 6.6 人 / 100m
※ 交流者数＝二人以上で滞在していた人数

■ 調査回数

2 回目　　前回： 2019年2月17日（月）

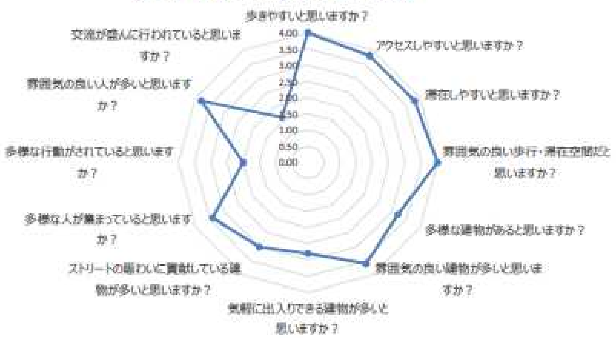
前回からの主な取組（2回目以降の場合）

緑道の植栽 ／ ベンチの設置 ／道路舗装の更新

■ 沿道建物の状況

建物件数：	8.3	件／100m
誰もが利用できる建物の割合：	79.3	%
利用者の様子が見やすい建物の割合：	94.6	%
建物外に滞留スペースのある建物の割合：	5.2	%

■ 総合評価



4. 改善状況のフォローアップ

国土交通省

本指標は１回の使用にとどめず、「居心地が良く歩きたくなる」まちなか形成に向けた目標の達成（滞在者数の増加等）のために、例えば、まちなかの空間の再整備を行った後などに、その効果を再確認するフォローアップ調査（２回目の使用）を行うなど、継続的に活用することが望ましいものです。

指標を活用した効果確認のフォローアップを含む全体プロセス

※黄色文字部分が本指標を用いるプロセス

段階	プロセス	内容
1回目調査 現状把握 課題抽出	まちなかのストリート・広場の選定	✓ 滞在者数を増やしたいストリート（広場）、時期、曜日、時間等を設定
	本指標での調査①	✓ 現場で滞在者数を確認するとともに、人の行動、公共整備の状況、建物の様子、感じる気持ちを簡易に確認
	調査した内容から課題を抽出	✓ 現場で感じた気持ち、実際に行われている人の行動を中心に、滞在環境への課題を抽出
課題を踏まえた「居心地が良く歩きたくなる」まちなか形成の各種の取組み	抽出した課題について詳細調査・検討	✓ 課題に関係する既存研究やガイドライン・事例集の確認、具体項目への詳細調査を行い、改善項目を抽出
	対策項目を選定　目標を設定	✓ 改善項目に対する対策を立てるとともに、滞在者に関する目標を設定
	対策を実施（簡易実験を含む）	✓ 対策を実施（簡易実験を推奨）
２回目調査 効果の確認のためのフォローアップ調査	本指標での調査②	✓ 対策後または実験中の現場状況を確認
	対策効果（前回との違い）を確認	✓ 現場で感じた気持ち、実際に行われている人の行動を中心に、対策前のとの違いについて詳細に確認

※「居心地が良く歩きたくなる」まちなか形成につながる取組みを継続的に行う。

おわりに

（１）「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成に向けて

「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成の推進により、全国各地のまちなかに着実な変化がもたらされるよう、今後も様々な形で支援をおこなっていく予定です。

国土交通省都市局では、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成に向けて、法律・税制・予算について、以下の取組みを行っています。

・法律　http://www.mlit.go.jp/report/press/toshi05_hh_000271.html
・税制　http://www.mlit.go.jp/page/content/001320178.pdf　（P11）
・予算　http://www.mlit.go.jp/page/content/001321120.pdf　（P19～25）

（２）本指標に関するお問い合わせ

今般提供させていただく指標は、地方公共団体を中心にご使用いただき、サンプルを増やしながら使い勝手がより良いものに改訂していく予定ですので、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成に取り組む意向のある団体におかれましては、積極的なご活用をお願い致します。

・指標の各種資料　https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_fr_000009.html
・指標に関する問い合わせ先　国土交通省　都市局　まちづくり推進課　TEL：03－5253－8406

「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市再生に向けて

国土交通省都市局まちづくり推進課